

ドゥテルテ大統領の晩餐会

フィリピンのドゥテルテ大統領は、2017（平成29）年10月25日から31日まで来日した。その年の1月に安倍晋三総理がアジア4カ国を歴訪したことのお返しの意味だろうか。この時、私は首相公邸での晩餐会にご招待いただいた。

日比両国で70人程度の晩餐会だった。日本側の参加者は総理夫妻、麻生副総理、各大臣、大使、秘書官、補佐官たちであった。民間から招待を受けたのは7人だけで、とても光栄に思った。母親がフィリピン人である元AKB48の秋元才加さんはフィリピン観光親善大使として晩餐会に参加していた。

17年1月のフィリピン訪問時、安倍総理が国を挙げての大歓迎を受けたの

伊藤製作所社長

伊藤 澄夫 27

を私は目撃している。あの時の盛り上がりとは比べて、この晩餐会は何かあったのかな、と思えるほどの静かな雰囲気

を私は目撃している。あの時の盛り上がりとは比べて、この晩餐会は何かあったのかな、と思えるほどの静かな雰囲気

フィリピンの立ち位置を推測する

領は中国を訪問した。中国新華社通信

支援を行った。鉄道や地下鉄、海上自衛隊の双発練習機、大型巡視船2隻を供与した。大統領の祖父が中国人であり、中国とのつながりにより、何らかの政策の変化は予想していただろうが、大統領の中国に対する親密さは、日米の予想を大きく上回るものだ。

によると、ドゥテルテ大統領は中国との同盟を強化したのだ。また日・米・豪・ベトナムが盛んに注文をつけていた南沙諸島での中国の軍事行動に、ドゥテルテ大統領は何一つクレームをつけなかった。オバマ前大統領と折り合いが悪かったこともあり、対米批判の放言など、日本以上に米国は困惑したようだ。

あるいは、中国から日本以上の支援があり、西天秤を掛けているのであるのか。かつての宗主国である米国に対する反植民地感情が底流にあることは間違いなさそうだ。米国としてはフィリピンをつなぎ止め、同盟関係を維持したいところだ。アジアの対中国包囲網からフィリピンを失うことは大きな痛手となる。日本を絶対的に信頼し、

「親日・親米・反中」だったアキノ前政権と同じ政策であろうと期待していた日本政府は、フィリピンに多額の

尊敬しているフィリピン政府に対するわが国の外交手腕に期待がかかっているのだ。



フィリピンのドゥテルテ大統領(左)に再会した私